

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立松山北高等学校中島分校

学校番号 23

教育方針	自律・進取・敬愛を重んじ、豊かな人間性と社会性を養うとともに、個性や能力を生かす教育の充実を目指し、平和な国家社会に貢献できる国際感覚豊かな人間を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 — 感謝から自立と共生 — 1 基本的な生活習慣の確立、自律心の育成及び豊かな人間性と社会性の育成に努めます。 2 基礎・基本の定着を図り、個性の発見と伸張に努めます。 3 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、進路実現に努めます。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	適切な教育課程の編成	生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成する。	A	教育課程検討委員会で内容を検討し、生徒の適性等に応じるよう編成した。	新教育課程の実施後の成果を分析し、生徒の実態に対応できるようにする。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動の紹介発信に努める。	A	ホームページを刷新し、あらゆる機会を通じて分校の情報発信を行った。	ホームページをはじめ、タイムリーで印象に残る情報発信を続ける。
		PTA 活動(総会・研修旅行等)への参加者増を図る。	B	総会・研修旅行は現状維持に留まったが、奉仕活動では参加増となった。	年度当初の予定通りに実施できるよう各方面との調整を図る。
	地域での奉仕活動を年間8回以上実施する。	A	1年間、学校教育活動全体を通して、奉仕活動を行うことができた。	より生徒の積極的な取組となるよう、自発的に意識を高める工夫をする。	
危機管理		学校安全に関する研修や点検を適宜実施し、事故の未然防止や対応に努める。	B	従来の安全点検に地震を観点に入れた項目を加味し、適切に実施できた。	教職員の危機管理意識を高め、より細やかな点検ができるよう工夫する。
学習指導	教科指導の充実	個に応じた指導の工夫・実践により、生徒にわかる喜びと意欲を持たせる。	A	個別指導や少人数指導により、分かる授業を実践した。	生徒の実態に合う授業になるように、学習指導の工夫や研究に努める。
		各種資格・検定試験(国語・英語・商業)3級以上の合格率80%以上を目指す。	C	国語・英語・商業ともに、約50%の合格率に留まった。	HR等の進路指導を通して資格試験等に対する意識を高め、より高い目標に挑戦する意欲を持たせる。
	家庭学習の充実	個に応じた課題の工夫により、一日平均2時間以上の学習時間を確保する。	C	1、2年生では、5割程度の生徒が2時間以上の家庭学習ができなかった。	一人一人の学力に合わせて指導し、継続的な過程学習学習ができるようにする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の指導により、年間出席率95%以上を目指す。	A	出席率が94.5%あり、ほぼ達成できている。	体調の自己管理が行えるよう日々指導する。
		あいさつができる生徒100%を目指す。	B	学年が上がるにつれ自己評価が良く、全体としても、ほぼ達成できている。	生徒が自ら率先してあいさつを行えるよう生徒会から呼びかける。
		身だしなみが守れる生徒100%を目指す。	B	ほとんどの生徒が頭髪・服装の規定を守ることができている。	教職員の意識を徹底し、学校生活全体を通して指導を行う。
		清掃にまじめに取り組める生徒100%を目指す。	B	2・3年生は責任を持ってまじめに取り組んでいる。	清掃方法など基本的な事から指導し、意識の高揚を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	個人面接の充実	面接を一人年間6回以上行い、生徒理解に努める。	D	生徒による学校評価が低く、生徒の状況に応じた働きかけが十分でなかった。	生徒に対する声かけを全教職員が徹底し、学年団を中心に面談の充実を図る。
	交通安全指導の充実	登下校時のマナーや交通安全指導を通して、交通事故の防止に努める。	B	事故が一件あった。登下校のマナーについて特に問題はなかった。	自転車運転時と公共交通機関のマナーについて、継続的に指導する
	教育相談・特別支援教育の充実	教職員の連携と情報の共有を図り、特別なニーズを持つ生徒をはじめ多様な生徒一人一人を適切に支援する。	B	個別の指導計画や教育支援計画を整備し、生徒への支援のあり方を検討し、実施することができた。	保護者や関係機関との連携を深めながら指導を行う。
進路指導	進路指導委員会の充実	進路指導委員会を全学年、年3回以上実施し、早期に適切な進路指導を行う。	B	年間計画にしたがって適切に実施し、教職員間の意識統一を図ることができた。	1・2年生に対する進路指導を充実させる意識を、教職員間で共有する。
	進学・就職指導の充実	進学希望者の進学100%を目指す。	A	目標を達成することができた。	進路志望のミスマッチに早期に対処して目標を明確にさせる。
		就職希望者の就職100%を目指す。	A	目標を達成することができた。	生徒による企業見学を奨励し、適性に合った就職ができるよう支援する。
特別活動	特別活動等の充実	1年間継続して部活動に取り組む生徒100%を目指す。	B	活動の内容に差が見られるものの、全員が加入している。	意欲的に取り組めるよう活動目標や内容を明確にする。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、よりよい人間関係づくりを行う。	B	意欲的に活動し、集団としての意識や思いやる気持ちが育まれた。	自主性を引き出しながら、生徒ひとりひとりに目を向ける。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育ホームルームを充実させる。	B	年間計画に従って、各学年で工夫されたホームルーム活動を行った。	教職員のスキルアップにつながる現職教育を充実させる。
		人権だより、講演会、人権標語、人権ポスター等により、人権擁護の意識を高める。	C	教育活動全体を通して意識の高揚を図ったが、人権委員会活動が不十分であった。	人権だよりの発行を中心とする人権委員会の活動を活発にする。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	生徒一人一人に役割を与え、意識の高揚に努め校内美化を図る。	C	生徒数の減少で清掃担当場所が広くなり、行き届かないところがあった。	教職員の巡視指導により、生徒一人一人に環境美化に対する意識の高揚を図る。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	B	ほぼ予定通り実施した。ほとんどの生徒がまじめに取り組めた。	季節や天候を考慮しながら効率よく実施する。
	健康管理の充実	実践力につながる保健だよりを発行し、健康管理の徹底を図る。	A	保健厚生委員から説明を加えて配布することで、生徒の健康への意識が高まった。	生徒の興味を引く保健だよりを作成し、情報の発信の仕方を工夫する。
	安全管理の充実	防災避難訓練等により、安全管理能力の育成に努める。	A	防災組織を見直し、津波対策を新たに策定し、年4回の訓練を実施した。	命を守るためのより実践的な訓練を、年間を通して実施する。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。